

- 1 Prologue 「高島らしさって、どんなことなんだろう」
- 5 Episode 01 チームでものを作るおもしろさ 新旭電子工業株式会社 浦岡 麻美さん
- 6 Episode 02 田舎での子育てをめざして高島に 株式会社澤村 河本 尚子さん
- 7 Episode 03 リストラから出会った地元企業 田中建材株式会社 横山 草平さん
- 8 Episode 04 父から引き継いだ“高島ちぢみ” 株式会社マスダ 増田 英信さん
- 9 Episode 05 生産者の思いを伝えるパンづくり Pain D'or パン・ドール 木津 陽介さん
- 10 Episode 06 小学生の頃からなりたかった看護師に 医療法人マキノ病院 井上 照恵さん
- 11 Episode 07 退院後の生活までも考える看護を 高島市民病院 荒川 貴一さん
- 12 Episode 08 人の笑顔が自分の幸せに 社会福祉法人高島市社会福祉協議会 三矢 大輔さん
- 13 Episode 09 誰にとっても暮らしやすい地域づくり 社会福祉法人虹の会 川島 和久さん
- 14 Episode 10 自動車整備から福祉用具の世界へ 株式会社ヤサカ 平山 勇次さん
- 15 Episode 11 農業を魅力ある仕事にしたい うねの農園 田中 潔さん
- 16 Episode 12 たくさんの人とつながることにやりがい 西びわこ農業協同組合 上山 新さん
- 17 Episode 13 自然豊かな高島で子育てをしたい 公益社団法人びわ湖高島観光協会 遠藤 沙織さん
- 18 Episode 14 お客様の人生の節目にかかわれる喜び 今津サンブリッジホテル 澤田 知枝さん
- 19 Episode 15 スポーツで地域を元気に 認定NPO法人TSC 荒木 陽平さん
- 20 Episode 16 もっと木について学びたい 高島市森林組合 島本 達さん
- 21 Episode 17 魅力と深みのある和菓子の世界 有限会社とも栄菓舗 西沢 勝仁さん
- 22 Episode 18 信頼とより高度な経営支援をめざして 高島市商工会北部センター 川越 聡さん
- 23 Episode 19 福祉制度に関心を持ち、高島市役所へ 高島市役所 西中 彩乃さん
- 24 Episode 20 自分が育った保育園で、子どもの成長を支える 安曇川はこぶね保育園 桂田 幸子さん
- 25 Job & Housing Information 高島で暮らそう！～「住まい」と「仕事」を見つけるには、つくるには～

高校の授業で印象に残っていた会社で、 チームでものづくりのおもしろさを感じている

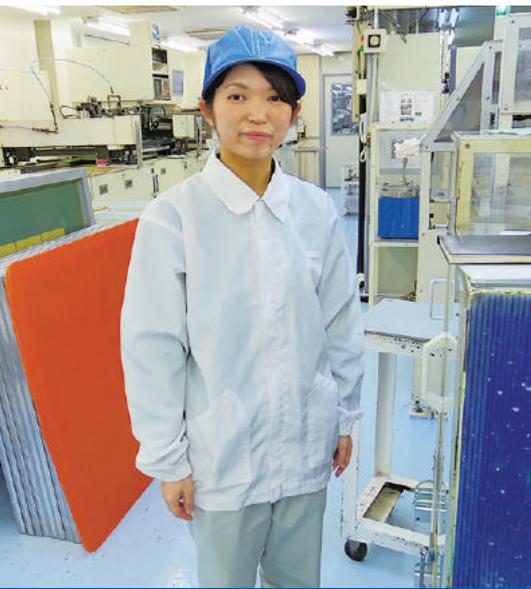
高校の授業で先生が紹介していた会社へ

高校卒業後の進路を教えてください。

高校は理系で物理・化学を選択していたので、大学は高校では学ばなかった地学を選び、地球学科へ進学しました。大学で印象に残っているのは、3～4名のグループで1つの山を一年がかりで地質調査をする課題です。岸和田市の神於山を調査対象とし、調査計画を立て、調査を実施し、記録をまとめて発表しました。チーム力、考える力、まとめて発表する力などがつきました。

就職はどのように決めたのですか？

就職セミナーに参加し、そこで会社名を



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1989年、京都市生まれ。4歳の時に高島市へ。2012年、新旭電子工業株式会社入社。高島市は人との距離の近さに心地よさを感じています。店などは少ないが、その少なさが人との出会いや人となりがを作っていると思います。

●1日のタイムスケジュール



見たとき、高校の授業を思い出しました。先生が「高島市内にも電気関係のすごい会社がある。ニンテンドーDSなどのゲーム機にも使われているソフト基板を作っている会社だ」と紹介され、近いところにすごい会社があるのだという印象が残っていました。会社説明をお聞きして、社員同士の距離が近く、親しみやすい印象を受け、入社試験を受け、採用となりました。

チームを組み、考え、作っていくおもしろさ

入社後の仕事について教えてください。

入社後、電子基板はテレビ、エアコン、ゲーム機、炊飯器、LEDライト、車など生活のあらゆる電気製品に使われていることを知りました。配属はプロセス技術課で、基板に塗る新しいインクの開発を担当しています。電子基板は緑色のイメージがあると思いますが、LEDライトには光を反射する白いインク、信号機など光を反射させたくないものには黒いインクなど、使われる製品の特性に合わせて様々あります。剥がれ難さ、反射率などを調べながら試作して評価する仕事です。製造現場では、人の手で微妙な調整を行いながら塗る製品もあります。そんな作業工程の改善や新しい工法の開発もしています。

どんなことにやりがいを感じますか？

製造現場との距離が近いので、新しい工法の開発などで、現場の人の役に立っていると感じられるときや、改善してよかったと言ってもらえるときに、やりがいを感じます。ものづくりの知識が豊富な製造現場と、開発や工程の改善、資材の有効利用など新しい物を作る開発部門と、他部門と一緒にチームを組み、考え、作っていくおもしろさがあります。

仕事の上で大切にしていることは？

プロセス技術課で女性の採用は私が一人目です。入社当初、男性の先輩の中で緊張もありましたが、入社して4年、今では話しやすい職場です。チームワークが重要

な仕事ですので話しやすいことは大切です。以前、使い捨てられる部材を再利用できないかと、現場や課内の人に相談する前に、自分で1～2ヶ月ほど検証し、結局、結論に持っていかず、製造現場や上司に相談してやり直した事がありました。自分で進める前に相談し、チームで検討することが大事だと痛感しました。



電話対応コンクールに出場されているそうですね？

日本電信電話ユーザー協会主催の電話対応コンクールには、社会人として常識を身につけたいという思いもあり、毎年出ています。今はまだ、社外のお客様と接する機会が少なく、たまに電話で対応すると緊張してしまいます。あたたかい電話対応ができるように研修にも参加して学んでおり、全国大会出場を目標にしています。将来は、お客様に分かりやすく製品説明などもできるようになりたいと思います。

コミュニケーション力が大切

製造分野をめざす若い人へメッセージをお願いします。

製造業は、自分でやったことが目に見える物として出来上がり、「これを作った」と言えるおもしろさがあります。製造という黙々と作業しているイメージがあるかもしれませんが、現場でも技術でも、コミュニケーション力が大切です。時には、仕事が上手いできないことやこの仕事に向いているのか？と感じることもあります。そんな時は、私の好きな『全人類肯定曲』という歌の「生きていだけでオッケー」という歌詞を思い出しながら乗り越えています。

新旭電子工業株式会社

〒520-1511 高島市新旭町藁園2588

TEL : 0740-25-5333 FAX : 0740-25-5335 HP : <http://www.s-asahi.co.jp/>

田舎での子育てをめざして来た高島で、 女性の働きやすい職場づくりをめざす

憧れのグランドホステスに

航空関係の仕事は、なぜ選ばれたのですか？

中学生の頃、空港で見たグランドホステスのきびきびとした仕事を見て、「カッコいい！グランドホステスになりたい！」と思いました。学生時代は京都の大学で経済を学び、就職先を考える際、やはり航空業界への夢が諦められず、日本航空へ就職しました。約4年間、関西空港で念願のグランドホステスとして働きました。飛行機の運行に影響を出さないようお客様に対応し、1分1秒の判断を求められる仕事で、肉体的にも精神的にもきつく感じる時もありました。ですが、航空機の扉を閉め、無事に出発するのを見送る時の達成感と、日々異なるお客様とフライトに対応する、変化に富んだ毎日は充実していました。

のびのびした田舎での子育て と仕事との出会い

なぜ高島へ来られたのですか？

学生時代の卒論発表時に、湖西にある大学の施設に来た時、琵琶湖沿いの風景がとても印象的だったのと、のびのびと子育てできるところと考えると、2009年に高島で暮らすことを決めました。駅に近く、病院もあり、買い物も近いことからJR近江高島駅の近くに住みました。子育てしながら自宅の近くで仕事をしたいと、募集が出ていた現在の会社のパートの事務職に応募しました。



パートから正社員になられたのですね。

建設業は男社会のイメージがあり、また事務職という初めての仕事で長く務められるか不安ばかりでした。しかし、働いてみると設計・営業・事務パートなど4名女性が働き、役員として事務所を管理され

ているのも女性で、入社前に抱えていた建設業界のイメージとは異なるものでした。子育てしながら働くことへの理解もあり、働きやすい雰囲気もあり、この会社で長く働きたいと思うようになりました。2012年の入社後、建設業経理士2級を取得し、一年後に総務部の正社員として採用していただきました。現在は、建築業経理士1級の資格を持っています。いつか、税理士資格も取りたいと思っています。

女性が働きやすい職場づくり をめざして

正社員になって、目標などはありますか？

女性の雇用も増やして、建設業のイメージを変えたいと思うようになりました。大企業では、会社の方針や経営を考えるのは一部のトップですが、中小企業だからこそ、総務部も関わりながら、より女性が働きやすい職場にしていける可能性を感じています。結婚しても、出産しても働き続けることを希望する女性には、本人と一緒に考えて、安心して働き続けることができる職場にしていきたいと思っています。会社の仕組みまで考え、関れることにやりがいを感じています。

のびのびと子育てできていますか？

高島は、山も琵琶湖もあり、ちょうどいい田舎だと思います。「カニ採って来るわ！」と飛び出す子どもの姿に、高島での暮らしの良さを感じます。伝統を守る城下町の風景があり、新しいチャレンジをしながらまちの良さを伝えていく工夫もある。地域の祭りなどに子どもと参加し、地域の人とのつながりを感じることが出来ます。伝統を守ってこられた反面、新しいものや考え方への抵抗感を少し感じることもあります。

好きな言葉は「置かれた場所 で咲きなさい」

若い人へメッセージをお願いします。

インターネットや就職情報誌に書かれ



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1979年、大阪府藤井寺市生まれ。2012年、株式会社澤村入社。現在小学2年生の母。高島は、ほどよい田舎。すぐ側に、山もあり、琵琶湖もあります。ずっと高島で生きてこられた方の中には変化を好まない気質を感じることも。

●1日のタイムスケジュール



た情報だけで判断しないで、と伝えたいです。少しでも関心のある会社には、訪ねて行き、会って、話して、聞いて、感じてほしいと思います。直接会って、自分で感じる事が大切です。また、「やりたい」ことがある人は、それに向かってとことんやりきってほしい。会社に入ることを目標にするより、どんな場所でも、置かれたところで「やりきる」方がおもしろいし、後々その経験が絶対に生きてきますので、そこで全力で「咲こう」と頑張してほしいと思います。

株式会社澤村

〒520-1121 高島市勝野1108

TEL : 0740-36-0130 FAX : 0740-36-1661

HP : <http://www.sawamura-shiga.co.jp/>

リストラから地元企業と出会い、 仕事をとおして社会の見え方が変わった

リストラをきっかけに 今の会社と出会う

高校卒業後の進路を教えてください。

大学は農学部へ進学しました。幼い頃に家族で高島に引っ越し、庭いじりやアウトドアが趣味の両親の元で、家の周りには農作業の風景が当たり前のようにありました。そんな姿を小さな頃から見ていて、自然や農業に関心を持つようになったと思います。

どんな会社へ就職しましたか？

種苗会社に就職し、高島市内で品種改良と種子生産の仕事をしました。その後、京都の本社で種子の回収や選別の仕事を2年間しました。しかし、2014年8月、リ



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1987年、京都市生まれ。2015年、田中建材株式会社入社。高島は、風の音、静かさがいいですね。ふとした景色に季節が感じられ、休日など、ゆっくりできるところがいいと思います。

●1日のタイムスケジュール



ストラで退社することになりました。愕然としました。納得いかない気持ちでいっぱいでした。

その後、どうされたのですか？

ハローワークで紹介された、「滋賀の“三方よし”人づくり事業（滋賀県の若年者就業支援事業：2013年3月終了）」に参加し、3ヶ月間、草津市へ通いました。ビジネスマナーや社会人の心構えなどを学びながら、就職活動をしていました。ここで、同じ目的の仲間に出会い、友人が増えました。また、この事業のマッチングイベントで今の会社と出会いました。最初の印象は、地元こんな高い技術の会社があるのかと驚きました。その技術力に魅力を感じましたし、自宅から通える近さも魅力でした。今まで関わりもなかった建設業に不安はありましたが、2週間の体験入社を経験し、約20名の社員が、心地よく交流する雰囲気やそれぞれの仕事が見える距離感に、ここで働きたいと思い、2015年3月に採用していただきました。

仕事をとおして社会の見え方が変わった

現在どんな仕事を担当していますか？

パソコンでの事務処理、現場での作業が主な仕事です。都道府県から出される道路や公園を作る案件整理と、新たな工事に当社の舗装技術が合うかどうか、上司に確認して提案営業できる資料を整理しています。地方自治体や県内の建築コンサルティング事業者の方にも営業に伺います。

まだ建設技術や資格が無いので、できるだけ現場で技術を知り、知識を得るようにしています。倉庫の整理などをして道具の名前を覚えたり、大型車両や特殊車両、建築施工管理技師の試験などの資格取得をめざして勉強もしています。

仕事の面白さはどんなところに感じますか？

石材業者、左官業者、足場組業者など多くの関連業者の方々と協力して仕事をすることにおもしろさを感じます。また、こ



の仕事を始めて、道路を見る目が変わったと感じます。入社後まもなく、大阪で山道だった通学路を舗装しました。道路が造られる過程を知って感動しましたし、自信と誇りになりました。道や公園を見ると、当社の技術が活きるのではないかと思います。段取りなどを考えるようになりました。社会の見え方が変わったと感じます。営業する上でも現場を予測し、営業することが大事だと感じています。

最初の一歩は勇気がいるが、 その一歩が一番大事。

入社されてまだ半年ですが、今後の展望はどうですか？

リストラの経験をマイナスに捉えず、前向きに、努力すれば必ず結果が出ると思えるようになりました。10年後には、必要な免許や資格も取り、会社の中で頼られる存在になりたいと思います。限られた人数の会社だからこそ、一人ひとりの存在が大きく、一人ひとりの力を発揮できる職場だと思います。

若い人へのメッセージをお願いします。

自分の好きな仕事を選ぶのはいいことです。しかし、少し視野を広げて、違う分野も経験してみたいと思います。自分に合うものに出会うかもしれません。初めから天職なんて無いと思います。成功や、失敗の中でその仕事为天職になっていくのだと感じます。少しでも気になる職や会社があれば、「経験させてください」と飛び込んでみることもいい経験になります。現場で感じるのが大事です。最初の一歩は勇気がいりますが、その一歩が一番大事だと思います。

田中建材株式会社

〒520-1621 高島市今津町今津1677-14

TEL：0740-22-0217 FAX：0740-22-1349 HP：http://www.tanakakenzai.co.jp

父から引き継いだ“高島ちぢみ”の生産から、 ここでしかできない“ものづくり”へ

大学時代に初めてじっくり 工場を見た

高校卒業後の進路を聞かせてください。

大阪の大学で機械工学を学びました。家業である織布工場を継ぐという意識は無く、関心があった分野へ進学したという感じですね。学生時代に初めて家の工場でアルバイトをし、主に機械や工場内の掃除をしましたが、その時、初めてじっくり工場の中を見た気がします。

工場を継ぐことはいつ決められたのですか？

3回生の頃、父から会社を継ぐように言われ、卒業後すぐ兵庫県立工業技術センターで3ヶ月間研修を受ました。そこでは織物の基礎とドビー織機を使ったドビー織り*について研修を受けました。布の切れ端から1本1本糸を解き、どのように織られているのか設計図を描く日々でした。元々細かいことが好きですし、新しい技術を学ぶのはおもしろかったですね。



研修を受けて、父が導入したドビー織機を十分に活かす技術を学ぶことができました。生地から製品の設計図を作れるようになり、現在は、イメージから設計図を作ることができます。新たな製品を生み出せるようになり、これまで注文どおりの物を生産するだけだったのが、こちらからも製品を提案できるようになりました。

日本でしか創れない、日本人 に合ったものづくり

研修後は、仕事では学んだ技術を発揮されましたか？

最初はただ指示されて動くだけでした

ね。それが変わってきたのは、市内外の展示会で、アパレル関係などの営業担当者と話ようになってからです。市内の織物業者で大阪や東京で素材展を開催しており、アパレルやインテリア関係の方と話をする中で、「こんなことはできるか？」と新たな製品への注文を受けるようになりました。工夫しながら対応していく中で、おもしろさが出てきましたし、毎年開催される展示会に向けて、新しく、何か違うものを提案できるよう、製品開発の機会にもなっています。

やりがいを感じるのはどんなときですか？

展示会での出会いから、話し合いを続け、3~4年経過して注文につながるものもありますが、自分が考えた生地の発注が決まるとやりがいを感じます。リスクもありますが、付加価値をつけていくおもしろさと責任を感じます。布製品は最新設備が東南アジアなどにも入り、安い輸入品との競争です。また、真似されるのは当たり前業界です。しかし、大切なのは日本でしか創れない、日本人に合ったものづくりをすることだと思っています。

主にどんな製品を生産されているのですか？

従来の地元を代表する“高島ちぢみ”生地の生産に加え、増えているのは麻製品の注文です。麻布は主に湖東地区（東近江市周辺）が産地ですが、工場は減っています。扱いがデリケートで難しい麻ですが、他所ではできないことをしていきたい方針で、織加工の対応をしています。また、オーガニックコットンの生地生産も手掛けており、完成された生地製品として出荷しています。東京の取引先にはオーガニックコットンに特化した製品だけを販売し、日本でのものづくりにこだわった会社があります。この会社は生地業者からデザイナーに直接提案させてもらい、イメージを話しながら、共同で新たな物を創るおもしろさがあります。最近は、お客様からの注文が変わってきており、ストールやシャツなど、消費者に直接販売する製品に仕上げる場合もあります。

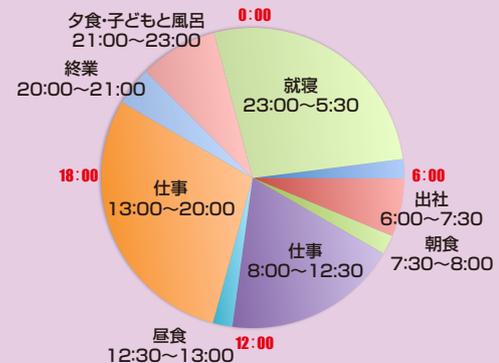


DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1980年、高島市生まれ。現在1歳児の父。休日は家族で市外へ買い物に出かけることが多い。高島は四季をととした風景の変化が観光資源だと思います。

●1日のタイムスケジュール



「自分で織った生地を着てみたい」 そんな若者と一緒に仕事をしたい

織物産業をめざす、若い人へのメッセージをお願いします。

生地づくりを一緒にできる若い方を求めています。細かいことが好きで、ものづくりにまじめに取り組む方で、「生地が好き」「機械が好き」「ファッションに関心がある」「自分で織った生地を着てみたい」そんな方と一緒に仕事をしたいですね。細かな作業の日々ですが、「鍛錬千日、勝負一瞬」。一瞬で決まる勝負のために、日々の積み重ねがあるとと思っています。

*ドビー織機で織られた織り方で、糸の動かし方(織組織)で柄を出した織物。

生産者の思いを伝えられる、高島のストーリーを語れるパンづくりをしたい

子どもの頃からものづくりが好き

いつ頃からパン屋になろうと考えていましたか？

祖父の代からのパン屋に生まれ、ものづくりや料理の好きな子どもでした。パン屋を経営する両親を手伝って夕食なども作っていました。中学生の頃には、パン屋になろうと思っていました。身近に道具があり、ものを作る環境が整っていたと思います。

大学で経済学を勉強されたのは経営のためですか？

高校卒業後はパン屋へ見習いに入ろうと考えていましたが、両親の勧めもあり、愛知

県の大学へ進学し、経済学部で学びました。大学時代はいろいろなパン屋を回りました。フランス人が経営する「ドミニクドゥーセの店」のパンがおいしくて、思わずバイトさせてほしいと飛び込みました。その店でバイトでは、朝5時からたくさんパンを作りました。徹夜でパンを作り、大学に行くのを忘れた日もあったくらい熱中しました。

卒業後も同じ店で一年間修行しました。毎日100本のバゲットを焼き、大量にクオリティを揃えて作る、いい経験になりました。フランス人にとって、パンは主食です。毎朝その日に食べるバゲットを4〜5本買います。フランスの有名な店では毎日2000本以上のバゲットを焼きます。日本とパンの捉え方が異なることを知りました。

材料選びから、お客様への販売まで、一から十までできることが楽しいですね。お客様との対話もやりがいにつながります。「昨日食べたパンおいしかったよ」と言ってもらえ、また来ていただけるとうれしいですね。

どんな難しさを感じていますか？

パンづくりと店の経営に没頭し、ゆっくり過ごす休日も無く、休みでも店やパンのことを考えています。ほかの仕事も同じだとは思いますが、代わりがないということに自営業の難しさを感じています。今は、両親と3人でパンづくりと店の経営をしています。

Pain D' or (黄金のパン)を開店

どんなパン屋をめざして開店されたのですか？

2000年にこの店を始めました。父とは味も店づくりも違うので、新しい店を建てました。フランスパン、クロワッサンなどを中心に、毎日食べても飽きない、安心して食べられるパンづくりをめざしました。低温長時間発酵で材料のおいしさを引き出しています。思い入れを持って作ったものをお客様に毎日出す。全て修行した店が基本になっています。

しかし、当時はパンといえば菓子パンや惣菜パンを求めるお客様が多く、作りたいものとお客様が求めるもののギャップに悩みました。少しずつ惣菜パンなどの種類を増やし、今は50〜60種類のパンを1日約800個焼いています。お客様は多い日で100名前後来られます。市内の老人施設、保育園、ホテル、レストランなど約10カ所へ配達もしています。

パンづくり以外の時間の過ごし方は？

商工会青年部の集まりなどに参加したり、月1回は仲間と飲み会するのが大事な時間です。学生時代に卓球をしていたので、卓球は続けていましたが、最近はできていないですね。

高島のストーリーを語れるパンづくりを

今後、めざしていることを教えてください。

高島市は人口が減ってきており、これからは、市外からでも買いに来ていただけるパンを作りたいと思っています。市内の材料をできるだけ使い、高島のストーリーを語れるパンを作りたい。材料の生産者がどんな人で、どんな思いを持っているのかを伝えたいですね。

パンづくりをめざす、若い人へメッセージをお願いします。

毎日の大変な仕事ですが、がんばった分だけ売上げにつながり、満足していただいたお客様から対価をいただく。とても分かりやすい仕事だと思っています。毎日、変わらずに作り続けることの大事さと、新しいものづくりへチャレンジする仕事です。

将来、できれば2〜3人雇用して、パン作りを伝えていければと思っています。



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1975年、高島市生まれ。2000年、パン・ドールを開店。生まれ育った町で、地域の人とつながっている安心感があるところに、高島の良さを感じます。

●1日のタイムスケジュール



やりがいはお客様との対話から

パンづくり、お店の経営をとおしてのやりがいを教えてください。

Pain D' or パン・ドール

〒520-1214 高島市安曇川町末広3-25-4
TEL & FAX : 0740-32-2056

小学生の頃には看護師になりたいと思っていた。 今、娘が看護師になりたいと言うのがうれしい

子どもの頃の 看護師との出会いから

看護師はいつ頃からめざしていたのですか？

京都で育った子どもの頃、母が看護助手として病院に勤めていたこともあり、看護師は身近な存在でした。小学校2年生のとき、祖父が心臓の病気で入院しました。看護師さんは患者である祖父だけでなく、家族の私たちにも優しい言葉をかけてくれていたのが印象に残っています。そんな出会いもあり、小学生の頃には看護師になりたいと思っていました。

高校卒業後の進路を教えてください。

京都府内の看護学校へ進学しました。看護実習は大変でしたね。朝から夜まで続く実習は、「記録」がメインです。治療や処置、患者さんの経過など、記録することは非常



に多く、重要な業務です。一つ一つの的確で厳しい指導があり、するべきことと記録に追

われていました。実習中、脳外科で入院されていた患者さんとの出会いは強く印象に残っています。担当した初めの頃、全く反応がなかった患者さんが、車椅子で一緒に散歩へ出たり、手や足を洗ってあげたりしているうちに、反応を示され、表情も出るようになっていきました。患者さんの回復を目の当たりにし、大きなやりがいを感じたのを覚えています。

マキノ病院へ就職されたのは、なぜですか？

実は、1993年頃に両親が今津に別荘を建て、時々、家族で遊びに来ていたのですが、私の看護学校卒業を機に両親がその別荘に移住しました。私も今津で一緒に住み始め、市内で看護職を探し始めました。マキノ病院は、受付や外来患者さんとの雰囲気が高く、スタッフも活き活きとされている印象を受け、就職を決めました。

元気に退院される患者さんの 姿にやりがいを感じて

お仕事について教えてください。

配属は、発症直後などの急性期の患者さんが多い東病棟です。マキノ病院には急性期の患者さんが入院されている東病棟と慢性期の患者さんが入院されている西病棟があります。一つの病棟には、1チーム3～4人の看護師で構成される2チームがあり、1チームが約30人の患者さんを担当しています。勤め始めて今年で17年になり、主任として東病棟のリーダー業務をしています。2チーム全ての患者さんの状態を把握し、医師やリハビリテーション科などに伝え、連携する役割を担っています。休みの後は、病棟内の変化を把握するのがたいへんです。

どんなときにやりがいを感じますか？

高齢の患者さんが多いので、退院後のご家庭の受入態勢についてケアマネジャーと相談し、訪問看護の調整などを行い、患者さんが安心して退院できるよう心がけています。元気に退院される患者さんの姿を見るときは、よかったとやりがいを感じます。一方、終末期の患者さんに接する時は、痛みや不安にどのように向きあうべきか葛藤しますね。どれだけ経験を積んでも、絶対の正解はないと感じる時もあります。

4歳の娘が看護師になりたい と言うのがうれしい

今後の展望を教えてください。

長く働き続けたいと思っています。市内で夫と出会い、結婚して、今は新旭から通勤しています。4歳になる娘がいますが、保育園のお休みには今津に住む両親が子どもの面倒を見てくれるので助かっています。娘は救急車を見ると「ママが乗っている！」と言うそうで、「看護師になりたい」と言ってくれるのがうれしいですね。また、職場はみんな仲が良く、楽しい雰囲気があるのもうれしいです。病院には託



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1976年、大阪市生まれ。2歳の頃に京都市へ。1998年、マキノ病院に就職。高島は自然が多く、人が親切なのが魅力だと感じます。両親が畑をしているとご近所の方が何かと教えてくれました。風車村など子どもが広々としたところで遊べるのもいいと思います。

●1日のタイムスケジュール



児所もあり、子どもができて働けやすい職場なのですが、結婚を機に看護師を辞めていく現実があり、いつも求人が出ている状態なのが課題ですね。

看護師をめざす若い人へメッセージをお願いします。

一般的に難しい仕事だと思われるようですが、人と関ることが好きな人であれば、やりがいのある仕事だと思います。幅広い年齢の方、様々な立場の方など、多様な人と出会う仕事でもあります。医療が日々進歩するのに合わせて、勉強し、スキルアップしていける技術職ですし、一生続けられる仕事だと思っています。

退院がゴールではなく、 退院後の生活までも考える看護を

母の仕事に憧れて看護師へ

看護師は、いつ頃からめざしておられましたか？

母が看護師で、子どもの頃から看護師に憧れがあり、高校卒業後、滋賀県立総合保健専門学校へ進学しました。さまざまな病院での実習では、患者さん一人を担当し、それぞれの患者さんから多くのことを学ばせていただきました。

なぜ、この病院へ就職されたのですか？

学校では奨学金制度を利用して学びました。私が利用した制度では、卒業後は高島市民病院に3年間勤めるというものでした。看護師になるための奨学金制度は、経済的な面では大変恵まれた制度だと思



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1990年、大津市生まれ。2012年、高島市民病院に就職。気持ちの切り替えに休日はバス釣りや友人とスノーボードへ。男性看護師同士のメンズ会での飲み会も楽しみです。

●1日のタイムスケジュール



います。ただし、そのために勉強するべきことは沢山ありますが。

入院から退院、その後の 日常生活までを考えて

病院での仕事について教えてください。

配属は外科系入院病棟です。初年度は約半年経った頃にローテーション研修として、院内の各科を2週間ずつ経験していきました。2年目からは、受け持ち患者さんを持ち、入院から退院までを担当していきます。月に6~7名を受け持ちますが、入れ替わりが激しい病棟なので、早い方ですと3日程で退院される場合もあります。

患者さんを担当する看護師の仕事とは？

患者さん一人ひとりに多職種のスタッフとチームを組み、退院まで対応するのですが、退院に向けての指導や方向性を決めるのに、中心になるのは受け持ち看護師です。例えば、人工肛門の手術を受けられた方の場合、手術後の排泄で変化が大きく、日常生活のために指導が必要になります。そこで看護師が中心となり、医師やリハビリ担当者、退院後に対応する訪問看護などとチームを組み、患者さんの退院、日常生活への復帰に向けたサポートについて検討します。入院中の経過をまとめた看護サマリーは退院後の訪問看護にも重要となり、退院後も担当看護師の責任が続きます。

ご家族への看護も重要

やりがいを感じる時はどんなときですか？

一生懸命考えてお世話した結果、患者さんが回復され、日常生活に復帰される時はうれしいですね。患者さんとのコミュニケーションの中で、患者さんの状態や心の変化などを汲み取り、患者さんの願いやご家族のことなどを考え、ご家族とも相談しながら退院後の生活を見越して、看護方針を考えていきます。退院がゴールではなく、日常へ戻られることをめざして看護しています。

どのようなことに難しさを感じますか？

以前、ガンの患者さんを担当した時、ご家族も告知のショックを受けておられ、ご

家族への看護も重要でした。手術後、ご自宅での療養も可能でしたが、必要な医療器具などを付けた状態での帰宅に、ご家族の不安と戸惑いが大きく、退院はかないませんでした。難しさを感じました。一人ひとりが違うように、看護も同じものはありません。患者さんお一人おひとりをよく知るために、患者さんやご家族とよくコミュニケーションを取ることが大切だと思っています。

専門性の高い看護師を めざしたい

看護師としての今後の展望をお聞かせください。

医療は日々進歩しており、30年仕事されている先輩でも日々勉強だと言われます。看護師には認定看護師という資格があり、専門性を高めていくこともできます。5年間の実務経験を積み、さらに専門の学校で学ぶ必要がありますが、私自身もいずれは皮膚・排泄ケア認定看護師を目指したいと考えています。専門性の高い看護師をめざし、長く仕事を続けたいと思います。



看護師をめざす若い方へメッセージをお願いします。

看護師は、相手の立場に立って考えられる人なら適正があると思います。仕事を通して、他人の痛みや辛さに共感する力が強くなったと感じます。簡単な仕事ではありませんが、やりがいがあり、一生できる仕事です。特に男性看護師はまだ少なく、ぜひ男性にも目指してほしいですね。男性の患者さんにとっては、男性看護師だからこそ話しやすいこともあります。

「試練は乗り越えられるから与えられる」という両親の言葉が励みです。壁に当たっても、前向きに対応しています。

高島市民病院

〒520-1121 高島市勝野1677

TEL: 0740-36-0220 FAX: 0740-36-8058

HP: <http://www.city.takashima.shiga.jp/tmh>

「ありがとう」と言っていただけの仕事、 介護職は人の笑顔が自分の幸せ

家族との時間が無い生活に 違和感

高校卒業後の進路は？

父が税理士事務所に勤務していた影響もあり、大学は経済学部に進学しました。4年間、税理士を目指す仲間と簿記会計研究部で活動していました。就職は、アパレル会社の小売部門で埼玉の店舗販売に就きました。職場では、日々の全てを仕事に費やすのが当然という、働く現実を叩き込まれました。自分の時間や家族との時間が無い生活をする先輩や上司を見て、自分も同じような将来を歩むことに違和感が生まれました。

「ありがとう」と 言っていただけの仕事

現在の仕事に出会うまでのことを教えてください。

父の病気をきっかけに、実家に帰ってきました。就職活動を始め、高島市社会福祉協議会を知りました。コミュニティワーカーとして働いていた同級生から話を聞き、地域に関わるいい仕事だと感じました。最初、通所介護施設に配属となり、利用者さんの暖かい「ありがとう」の言葉に「ああ、こういう仕事があるんだな」と感動しました。通所介護施設で3年勤務し、主任として職員のマネジメントや施設全体のプログラム作りなどを担当するようになりました。さまざまな研修にも参加し、通信教育で社会福祉士の資格を取得し、さらに介護の仕事が続けたいと感じて、介護福祉士、ケアマネジャー資格も取得しました。

現在勤務されている「えがお屋本舗下古賀店」とはどんな施設ですか？

平成24年に小規模多機能型居宅介護施設として開設されました。この施設は、高齢者が慣れ親しんだ人と地域の中で、生活能力の維持と向上を図れるよう、自宅での生活を支援しています。日中は施設に通い、サービスを受けることができ、また職員が自宅を訪問し、日常生活のサポートもします。時には施設で宿泊もしていただけます。施設に所属するケアマネジャーが利用者の生活全般を見ながら介護プランを作成します。

地域密着型施設であり、地域との連携は欠かせません。開設準備から勤務していますが、地域の方に、運営委員に就いていただき、少しずつ信頼ができてきたと感じています。地域の方とともに夏祭りなどを開き、住人さんと利用者さんとの交流を図り、施設と地域の垣根を低くしてきました。介護サービスを提供する場だけではなく“地域の縁側”のような場を目指しています。敷地内にある蔵を改修してコミュニティカフェを開設する予定で、このカフェも地域のみなさんと運営していきたいと思っています。

地域の方々とともに

仕事のやりがいは何ですか？

職員の育成にやりがいを感じています。職員が「利用者さんにとって良いサービスとは何か」を考え、理解し、自主性を発揮して、私の想像を超えるアイデアなどを出してくれる時は嬉しいですね。また、夏祭



りの参加者や協力者が年々増えており、地域づくりを実感しています。祭りに関わってくださった地域の役員さんは、任期を終えても関わり続けてくれています。

課題や今後の展望は？

認知症の利用者さんに対して、職員が理解を深め、一人ひとりに合ったサービスを提供したいと思っていますが、まだ難しさも感じています。認知症に対する地域の理解を広げることも大切だと考えており、出前講座を開いたり、祭りなどで直接、認知症の方と交流してもらっています。地域に開かれたサロンやカフェの運営で、子ども、現役世代、高齢者が交流する場を地域の方々とともに作って行きたいと思っています。

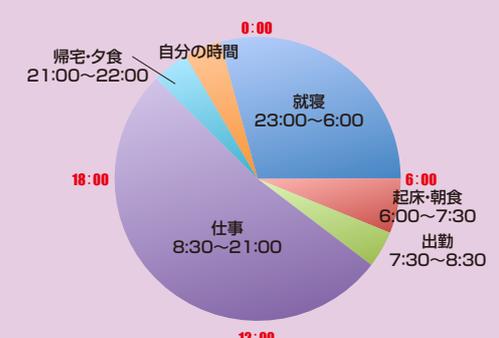


DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1979年、高島市生まれ。2004年、高島町社会福祉協議会に入社。5歳、3歳の父。高島の良さは、自然や地域の人のつながり、子どもと地域の行事や祭りも楽しめ、癒しと安心を感じるところ。高島は子どもを育てるのにもってこいだと思います。

●1日のタイムスケジュール



介護職は人の笑顔が自分の幸せ

福祉分野での仕事をを目指す若い人へのメッセージをお願いします。

福祉や介護は学びの多い仕事です。自分の成長にもつながり、自己実現したい方へお勧めの仕事です。人の幸せに関われる仕事で、周囲の笑顔と、自分の幸せにつながる場所は、福祉や介護職のやりがいです。

社会福祉法人 高島市社会福祉協議会 えがお屋本舗下古賀店

〒520-1202 高島市安曇川町下古賀1255番地

TEL : 0740-20-1352 FAX : 0740-20-1791 HP : <http://takashima-shakyo.or.jp>

障がいのある人が地域社会の一員として生きられる地域づくりは、誰にとっても暮らしやすい地域づくり

アパレル業界から 障がい者施設の仕事へ

高校卒業後の進路を教えてください。

将来のイメージが無いまま、大阪の大学で経済学を学びました。アパレル小売店のバイトがおもしろく、DCブランドの小売店に就職しました。お客様とのコミュニケーションが楽しくて、性格に合っていました。しかし、服にかかる出費が大きな負担だったのと、ノルマをこなすためには本意でない販売をすることもあり、2年後に退職しました。その後、ハローワークで社会福祉法人虹の会の求人に出会いました。障がい者施設での仕事については全く知らなかったのですが、新しいものへ向かっていく性格ですね。



DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1975年、高島市生まれ。2000年、(社福)虹の会に入社。10歳、4歳、1歳の父。高島は人と人のつながりがいい距離感であると思います。地域の行事などは地域との関りもあり、人との触れ合いがあるのがいいと思います。

●1日のタイムスケジュール



障がい者や家族の相談から 地域づくりへ

虹の会ではどんな仕事をされましたか？

知的障がい者の就労支援施設であるアイリスで、重度障がい者を担当しました。リサイクル事業で空き缶をつぶす作業の補助でしたが、作業の合間に散歩や音楽など楽しみの時間も作って、毎日を楽しく過ごせる居場所づくりを皆で考えていました。

2年後、障がい者のデイサービス、相談事業、居宅介護事業を行う湖西地域障害者生活支援センターわになろうが新設され、立上げのスタッフとして異動し、10年間仕事をしました。障がいのある人や家族の相談に対応し、必要な他の施設のサービスをつないだり、地域へ出向いて理解や協力をお願いしたり、相談者のニーズを充足していく仕事です。地域の中で障がいのある人が安心して暮らすためには、障がい分野だけでなく、教育、医療、民生委員など、様々な分野の人々との連携が必要です。地域の方との連携づくりは、視野も広がり、おもしろい仕事でした。

どんなことにやりがいを感じましたか？

相談対応では、障がいのある人の思いに寄り添い、どのような生活を送りたいかを共に考え・悩み、形にしていくことで、お互いが成長することができました。また、障がいのある人や家族をサポートするために様々な人や制度をつないでいくことで、だれもが住み慣れた地域で、安心して働いて暮らすことができる地域を作っていく



ことにやりがいを感じました。

その後、高島市障がい者総合支援センターコンパスの立上げに副センター長として関わりました。障がい全般に関して総合的な相談対応ができるセンターとして、市内各施設の精神障害、身体障害、知的障害などの専門スタッフと共に立ち上げました。また、新しい施設について、地域の

方々などに周知活動をしました。障がいのある人が地域社会の一員として生きるための、地域の理解と協力の輪を広げる地域づくりを担いました。

社会に必要とされる 働く場所を作る

またアイリスに戻って来られたのですね。

アイリスの施設長として戻って来た頃、障がいのある人を取り巻く環境は変わっていました。仕事の本質を考える中で、商品や提供するサービスの質を上げ、より単価の高い仕事を選び、市場に通用する、より社会に必要とされる仕事へシフトしていきました。障がいのある人の中には、環境の変化に対応する事が苦手な人もおり、同じ場所で同じ作業という安定した作業も継続しています。

2014年10月に高島市観光物産プラザでオープンした「Mizu Café COCCO」は、地域で働く一つのスタイルとして、誰もが自然と障がいのある人の働く姿を見て、理解されることをめざしています。地域に必要とされる、新たな働く場所ができたと思います。

リスクを恐れず、とにかく やってみること

障がい者にかかわる仕事をめざす若い人へメッセージをお願いします。

「障がいのある人が働き暮らす、誰にとっても暮らしやすいまち」、「人のつながりがあり、人として大事なものがあるまち」として、高島を次の世代に伝えていきたいと思っています。障がいのある人の社会参加はますます進み、就労支援の場では市場ニーズや市場経済に関心を持つ人も活躍できます。だれもが自立して生き方を選べる新しい社会を、一緒に作るおもしろさがある分野です。人との関わりが好きなことが基本です。そして、リスクを恐れすぎず、責任と真剣さを持って、「とにかく、やってみる」ことです。

社会福祉法人 虹の会

〒520-1521 高島市新旭町北畑45
TEL：0740-25-8220
FAX：0740-25-8221
HP：<http://www.shiganiijinokai.net>

自動車整備から福祉用具の世界へ、 福祉用具の奥深さを若い人に知ってほしい

自動車整備士をめざして 自衛隊へ

高校卒業後の進路を教えてください。

小さい頃から車が好きで、自動車整備士になりたいと思っていました。自衛隊に入れば、整備を経験しながら資格の勉強もできると考えて入隊を決めました。自衛隊では、基礎教育の後、自動車整備の基礎を学び、大阪の整備部隊に配属され整備や車検などの経験を積むことが出来ました。高校では野球部でしたし、体を動かすことは好きで、団体生活も楽しかったですね。

なぜ、介護の仕事に変わったのですか？

20代後半に、将来のことを考えるようになりました。結婚して、子どもを育てる



なら田舎がいいと感じていましたし、実家の両親のことや農地のことも考えるようになりました。今津にも自衛隊駐屯地はありますが、整備

の部隊ではなかったこともあり、26歳のときに退職を決め、実家に戻りました。職探しでは、話すことが好きだし、営業に向いているのではと思っていました。また介護保険制度がスタートし、介護の仕事も気になっていました。ハローワークからの紹介で就職を決めましたが、全く経験の無い分野でも割と楽天的に考えていましたね。

ずっと勉強ができる仕事に 魅力を感じた

入社してからの仕事を教えてください。

3ヶ月間は、先輩と一緒に福祉用具を届ける現場を回り、先輩の仕事から用具の組み立てや説明の仕方などを学ぶ研修でした。この研修で福祉用具のイメージが変わりました。車椅子や歩行器は単なる移動手段の道具ではなく、適正なフィッティングによって、使う方の姿勢が保たれ、快適な生活の助けになると知りました。また、福祉用具レンタル事業は、利用者の生活状態などを把握されているケアマネージャーからの情報を元に、その人に合った福祉用具

を用意する仕事であり、ケアマネージャーとの信頼関係が不可欠だということも分かりました。ご利用者様からの「楽になったよ」との感謝の言葉にやりがいも感じられ、どんどん変化する福祉用具についても、ずっと勉強ができる魅力ある仕事だと思いました。

どんな仕事を担当していますか？

入社して1年間は配送を担当しました。営業担当が決めた福祉用具をご利用者様にお届けする仕事です。用具を届けるだけでなく、適正な使い方などをご本人やご家族に説明します。配送を経験し、ご利用者様への対応や福祉用具についての知識も身につけていきました。その後、現在まで営業を担当しています。営業は、ご利用者様の状態に合った福祉用具を決める仕事です。また、ケアマネージャーへ常に進化する福祉用具の情報を提供していきます。ご利用者様のケアプランについて、様々なサービス提供者が集まり検討するサービス担当者会議にも参加し、ケアマネージャー、訪問看護師やヘルパー、ご家族とともに、ご利用者様が望まれる生活ができるようチームで対応します。

若い人も福祉用具の 奥深さを感じてほしい

やりがいを感じる時はどのようなときですか？

自分の決めた福祉用具でご利用者様の日常生活が楽になり、行動が広がるのを見るときですね。身体機能は、70代でも80代でも上がる可能性があります。歩ける方はさらに歩けるように、少しでも活動が広がるように、勉強は欠かせません。適正な福祉用具の選択と使い方、そのお手伝いができる、常にやりがいが見つかる仕事だと感じています。

この仕事をめざす若い人へメッセージをお願いします。

実は、高校生の頃は、高齢の方が杖をつけて歩いておられても、車椅子の方を見

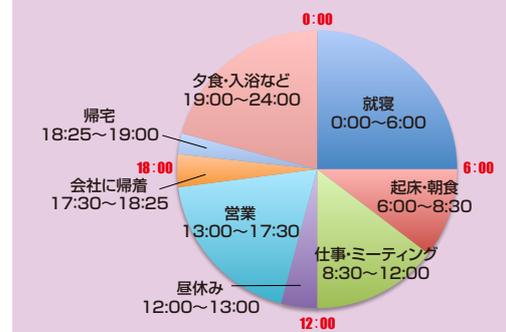


DATA

●プロフィール&高島らしさとは？

1983年、高島市生まれ。2009年、株式会社ヤサカ入社。三ヶ月前に子どもが生まれた。高島は、空気がいいし、地域には人のつながりがあり、暮らしに安心感があると思います。休日は大津へ買い物に行くが、都会へのアクセスがいいのも良いと感じています。

●1日のタイムスケジュール



かけても、特に気にしていなかったのですが、この仕事に就いてからはつい目が行きますし、困っておられるようなら声をかけるようになりました。まちを見る視点が変わりましたね。高齢化社会で、益々必要とされるこの仕事をずっと続けたいと思っています。若い人にも福祉用具に興味を持ってもらい、奥の深さを感じてほしいと思いますね。高齢になっても、適正な支援があることで、自立的に長く暮らしていける社会づくりにつながる仕事だと思っています。

株式会社ヤサカ

〒520-1621 高島市今津町今津1970-1

TEL : 0740-22-2751 FAX : 0740-22-1564

HP : <http://daisuki-kaigo.com/>